



堀船中だより



感謝の言葉

校長 鈴木 格也

先月春一番が吹き、春の陽気を感じるようになったところで、今月になってはコートを手放せない寒さが続く毎日です。春本番に向けて、桜のつぼみは少しずつ大きく膨らんできています。春は出会いと別れの季節と言われますが、3月には名残惜しい気持ちで卒業式と修了式を行い、小・中学校では大きな節目を迎えることとなります。堀船中学校では、63名の卒業生がこの仮校舎を巣立っていきます。中学校生活3年間の締めくくりとして、在校生と教職員に祝福される卒業式を挙げたいと思っています。しかし、本校体育館の収容スペースの関係で、在校生が卒業式に参列できるのは、生徒会役員と卒業生の弟妹、3組生徒に限定されます。そこで、今年度は卒業式前日に、「卒業前の集い」を企画し、生徒会役員の進行で、在校生が卒業生に対して合唱し、その後に卒業生から在校生に合唱を贈る時間をもつことにしました。お互いに心通わせる最後の機会とし、感謝の気持ちと尊敬の気持ちを感じてもらえればと思っています。卒業式当日は、たくさんの保護者・地域の皆様にも祝福されて卒業して欲しいと願っています。

この年度末の大きな節目の時期に、大切にしたいことが一つあります。それは、感謝することです。人は、自分以外の人から何かをしてもらったら、「ありがとう」と言葉にします。私は、感謝する気持ちを言葉にして、態度で示すことが大切だと思っています。自分を大切にしてくれた人に対してであったり、自分に親しく接してくれた人に対してであったり、視野を広げてみると、気づくことがたくさんあると思います。例えば、いつも自分のことを心配してくれているお父さん、お母さんであったり、いつも話し合ったりふざけ合ったりした親しい友達であったり、部活動で一緒に練習や試合をしてきた仲間であったり、集団生活を一緒に過ごし各行事に熱く取り組んだクラス・学年の仲間であったり、いろいろなことを教えてくれたり、相談にのってくれた担任・学年の先生であったりなどが挙げられます。一方で、人への感謝する気持ちも大切ですが、身の回りの物への感謝する気持ちも大切です。いつも使っている鞆、椅子、机、きたコン、教室など身の回り物はあって当たり前と思うところですが、なくては困ります。壊れても困ります。言葉に表すことは少ないのですが、物に対する感謝も忘れないで欲しいところです。日本のお家芸の一つに柔道がありますが、柔道の礼に始まって礼に終わる姿は、相手に対して、競技できる畳や場所に対して、感謝する気持ちを一礼する態度で表しています。他のスポーツでも、共通する姿が多く見られるようになりました。感謝することや配慮することは、心が豊かになり、周囲の人からも信頼され、より一層、一つ一つのことが楽しく思えるようになることを生徒にも伝え、育てているところです。

3月4月への新しいスタートのための助走期間です。親子、先生も新たな目標をもち、新学年への準備をしていきましょう。

今年度の堀船中学校の教育活動にご理解・ご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。次年度の令和8年度も、これまでと同様に、よろしくお願い致します。

今年度も多くの学びと発見が詰まった校外学習に取り組みました。生徒たちは、教室では得られない実地での学びを経験し、成長する貴重な機会となりました。各学年が訪れた場所で歴史や文化、都市の発展、芸術に触れ、知識や視野を広げるとともに、今後の学びや進路に対する意識も高まりました。これからも、生徒一人ひとりの成長を支え、さらなる学びの場を得られる校外学習を企画してまいります。保護者の皆様には引き続き温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます

◆1年生 鎌倉校外学習◆

1年生は、鎌倉時代の社会や文化について事前学習を行い、当時の政治や寺社などについて理解を深めた上で校外学習に臨みました。当日は班ごとに計画した行程に沿って名所を巡り、寺院や史跡を実際に見学しながら、歴史的な出来事や人物について学びを深めました。現地で実際に見て感じることで、鎌倉時代の歴史や文化をより身近なものとして捉えることができ、教室での学習をさらに広げる貴重な機会となりました。



◆2年生 横浜校外学習◆

2年生は、横浜にある日本の近代化を象徴する港湾施設や歴史的建造物を巡る校外学習を行いました。生徒たちは、みなとみらいエリアを中心に見学し、実際に街を歩きながら横浜がどのように発展してきたのかを学びました。現地で建物や港の様子を見ながら学ぶことで、横浜の歴史や都市の発展について理解を深める良い機会になりました。

